

# 令和7年度第1回伊賀市行政事務事業評価審査委員会 議事概要

開催日時	2025(令和7)年10月27日(月) 午後1時30分から午後4時
開催場所	伊賀市役所本庁舎4階401会議室
傍聴者数	0名
出席委員	小林 慶太郎【1号委員】 伊室 春利【2号委員】 岩野 帆乃佳【3号委員】 瀬戸口 早苗【4号委員】 北森 輝【4号委員】
欠席委員	船見 くみ子【2号委員】 井上 順子【2号委員】 松村 元樹【2号委員】 森本 吉光【2号委員】
事務局	○未来政策部公共・人づくり推進課 課長 植田、主査 大山、主査 大門、藤田
議事日程	委員長あいさつ 1. 協議事項 (1) 副委員長選任 (2) 共感による公共マネジメントパッケージについて (3) 「行政経営改革を進めるための考え方」の審査 2. その他
配布資料	当日配布資料 ・ 事項書 ・ (参考資料) 伊賀市行政事務事業評価審査委員会委員名簿 ・ (参考資料) 行政事務事業評価審査委員会条例 ・ (参考資料) 総合計画第2章構想抜粋 ・ 資料1 共感による公共マネジメントパッケージ概要版 ・ 資料2 共感による公共マネジメントパッケージ
議事概要	委員長あいさつ 1. 協議事項 (1) 副委員長選任 … 松村元樹委員 (2) 共感による公共マネジメントパッケージについて (3) 「行政経営改革を進めるための考え方」の審査  【委員】これまでの行財政改革大綱(以下、大綱)でのスリム化を図ることと、行政総合マネジメントシステム(以下、MS)でPDCAサイクルを活用するという考え方を組み合わせて整理したということか。 ➤ 【事務局】大綱だと変化に対応しづらい一方、MSのPDCAサイクルだと対応しやすいが、自浄的に改善していくのが難しいという欠点があった。大綱のようにここまでこうするという考え方は持ちつつPDCAを回すということでやっていきたいと考えている。

- 【委員】事務事業の中には PDCA に当てはめるのが難しいもの、改善が難しいものもある。
- 【事務局】大綱では何をするか定めがあり、行政総合マネジメントシステムだとどうするのかが記載されている。2つを組み合わせ、さらに総合計画に記載する市民との共有・共感の要素を入れた構成にしている。  
具体的に何をするかは、内部向けに整理する予定である。
- 【委員】目標と実行、評価を一体化してマネジメントすることか。
- 【事務局】その通りである。

【委員】市民の共感はどのように生むのか。

- 【事務局】今までも何かをするときに共有をしてきたが、タイミングやプロセスが適切ではなかったのではないかとこのところから、改善することで、理解、関心、共感を生み、将来的には行動変容に繋げられればと考える。まずは情報共有から考えていく。4つのガイドラインを、共感を得るために必要な考え方として示す。

【委員長】資料2 共感による公共マネジメントパッケージの P9 記載の「市民への共有不足」について説明がなく、P12 まちづくりアンケート結果の満足度が下がり、参画度が横ばいなのはなぜかという原因分析も分からない。「具体的にどうするか」は、市民等との情報共有に関するガイドラインに記載されると思うが、これまでの取り組みにおいて満足度が下がったとか、あまりうまく共有ができていなかったことをどう捉えるかについてもう少し説明があると良い。

- 【事務局】他のガイドラインに記載しているものもあり、整理する。
- 【委員長】本ガイドラインは庁内向けかと思うが、庁内でも共有されていないと先に進めないのでは記載していただきたいと思う。
- 【委員】所感だが公共施設の閉鎖や補助金の廃止により行財政改革を進めてきた結果、満足度や参画度が低下したと分析する。市民との情報共有によって、満足いただくことは難しいだろうが説明を重ねていくことが大事と思う。そうでなければ市民が行政からだんだん離れていくのではないか。

【委員】市の事業の施策を調べるために事務事業評価シートを閲覧したが、事業によって密度や書き方が異なり、何を実施しているのか分からなかった経験がある。共通管理シートは、市民が見て何をしているか知れることが、共感に重要なことだと思う。入力項目はこれから決定するのか。決定済みであればわかりやすく改善すべき。

- 【事務局】資料に掲載しているものはイメージで、詳細については作成中である。事務事業によって規模が違うものはあるかもし

れないが、成果指標や目的の整理がされると密度や確度が精査されと思う。項目は作成中だが、項目の提案等ご意見を受けて、必要なものは反映させていく。また、共通管理シートは内部向けだが、事務事業評価、施策評価は市民に公表している。情報共有の運用はまだ定まっていない。予算要求に関しては、公表していない。

- 【委員長】事務事業の評価と改善に関するガイドラインに繋がると思うが、基本的には内部評価になるだろうが、市民も関心のある施策について共有され、意見を言い合える方が方向性として望ましい。その役に立つようなシートができることを期待したい。
- 【事務局】共通管理シートとは別に、共通して入力した項目が事務事業評価シートとしても出力できるような運用をする。現行の事務事業評価シートの内容が密度や施策との繋がりなど表現がまちまちのため、内部的に分かりやすく整理できるような補助ツールも考えている。考えるための資料として施策との繋がりを図化したものを各所属に提供したいと考えている。
- 【委員長】パッケージが完成してガイドラインが機能し始めると、事務事業評価シートが改善されて分かりやすくなることが期待される。
- 【事務局】行政改革を進めるための考え方に記載のとおり、職員一人ひとりが改善を考える習慣をつけていく。その考え方はシートやガイドラインでナビゲートしていく。
- 【委員】第三者から見て、適切な目標か、成果指標か等を含めて評価できる仕組みが必要かもしれない。
- 【委員】事業終了後に次に違う事業をするか、同じでもどう改善していくか、振り返ることが今後行政を続けていくうえで大切だと思う。改善は見落としされがちだが大切である。
- 【委員長】シートが作れるようになると、職員自身が何のために何をしているか自覚して仕事できるようになり、計画・評価しやすく、予算も立てやすくなる。さらに組織改編や人事に繋がると一番いいと思う。労力をかけずに1つのシートで説明できるようにすることで働き方改革や市民にとっての分かりやすさになってくと思う。
- 【事務局】いままでのPDCAでは、Aに「組織改善」と「人事配置」を記載していなかったが、記載した。お金だけではなく、人に繋がりたい。
- 【委員】Aは一般的には改善だが、+αで「発展」も入れてはどうか。
- 【委員長】チェックをしてうまくいったとしても新たな課題がある場合、アジェンダを作成するので、アジェンダ作成のAでもあるかもしれない。それによってスパイラルアップしていく。
- 【事務局】行革といえば、イメージは「縮小」かもしれないが、本来は充実・発展も改革のひとつである。今までは削減や縮減ば

かりが表に出ていた。そういう意味では、両面を持って共感という概念を入れ、市民の共感を得ながら進めることでイメージが変わっていくといい。

【委員】このパッケージだと長期的なチェック体制になると思うが、各所属でさらに短いスパンで改善していく考え方や仕組みはどうなっているか。

➤ 【事務局】事務事業の中には細かい事業がたくさんあって、担当内や事業内では振り返りはあるはずだが、行政としてこう進めていくべきと示したものはない。小さいPDCAをどんどん回して大きいPDCAが回っていくという考え方を示せばより良い。検討していく必要はあると思う。

➤ 【委員】そのフレームを例示してもいいのでは。

➤ 【事務局】職員の仕事に対する意識として、政策、基本事業、事務事業、具体的な取り組みの構成と繋がりを理解してもらえよう構成にしたつもりである。傾向としては細かい事業が見えているが、それしか見えていない職員が多い。本パッケージとしては全体像を見ることが大事という構成にしている。

【委員長】四半期毎程度のスケジュールも市民に共有できるといい。市民はいつ要望したら施策や予算に反映されるかわからない。

また、個々の職員でも業務の振り返りができるような仕組みがないと一生振り返りをしない人がいるかもしれない。

➤ 【事務局】共感を生もうと思うと、日々の振り返りや反省は大事なことである。

## 2. その他

次回開催予定：11月10日（月）13時30分～ 401会議室

以上